

暖地における適性オウトウ品種の選定

佐藤吉史・鈴木敏克¹⁾・下田 透・緒方隆博・下郡嘉勝(宮崎県総合農業試験場・¹⁾宮崎県農政水産部)Yosifumi SATO, Tosikatu SUZUKI¹⁾, Toru SHIMODA, Takahiro OGATA and Yosikatu SIMOGOURI :

Selection of Cherry Cultivars for Temperate Region

オウトウは、東北地方等の寒冷な地域を主産地とする果樹であるが、近年では、西南暖地においても、中山間地域の冷涼な気象条件を活用できる高単価果樹として各地で導入が検討されるようになってきている。しかし、暖地においては、一般に着花果が不安定で、安定生産が困難である場合が多い。

そこで、暖地に適した栽培体系を確立するため、暖地適性品種について検討を行った。

1. 材料および方法

供試品種には、予備試験において短果枝の着生が良好であった‘佐藤錦’、‘高砂’、‘ナポレオン’、‘高社錦’、‘正光錦’、‘香夏錦’、‘夕紅錦’、‘高陽錦’の8品種を用いた。

各品種とも1990年に60ℓポットに栽植し、総合農試内の雨よけハウスで栽培を継続した。その後、1996年に100ℓポットに植え替えし、花芽の着生を促進するため、側枝は水平に誘引した。

2. 結果および考察

花芽の着生は、‘ナポレオン’が他品種に比べて少なかったが、‘ナポレオン’以外の各品種は、良好な花芽の着生状況であった(第1表)。

調査期間中の各年次の休眠完了に必要な7.2℃以下の低温遭遇時間は、1996年1,600時間、1997年1,330時間、1998年900時間であった。各品種とも1,300時間以上では、順調に開花したが、900時間(1998年)では、‘佐藤錦’、‘高砂’および‘ナポレオン’の3品種は、開花花芽率が低く、低温遭遇不足と思われた。これに対し、‘正光錦’、‘香夏錦’、‘高社錦’、および‘高陽錦’は短い低温遭遇時においても、他品種に比べてよく開花した(第1表)。

花粉発芽率は、年次によって大きく変化し、各品種とも低温経過時間が少ない年次において、発芽率が低下する傾向が認められた。しかし、低い年次においても各品種とも30%以上の花粉発芽が認められた(第2表)。

結果は、‘正光錦’、‘香夏錦’および‘高社錦’が良好で、‘佐藤錦’、‘高砂’、‘ナポレオン’、‘夕紅錦’および‘高陽錦’の各品種は幼果期に異常落果が多発し、結果は不良であった。年次間では、開花期に低温で経過した1996年の結果が良好で、1997年および1998年は不良であった。(第3表)。

果実のBrixは各品種とも20以上を示し、良好な果実品質であった(第4表)。

このようなことから、暖地においては、暖冬条件下で

も良く開花し、結果性も比較的良好な‘正光錦’、‘香夏錦’および‘高社錦’の早生品種が適しているものと考えられた。

第1表 オウトウ品種の花芽着生数および開花率

品 種 名	1 樹 短果枝数	開花率	
		1997年	1998年
佐藤錦	369	91.4%	25.0%
高砂	311	90.6	17.1
ナポレオン	121	93.2	23.6
高社錦	239	94.3	49.3
正光錦	278	87.3	54.2
香夏錦	221	91.7	62.0
夕紅錦	273	89.6	32.5
高陽錦	222	93.3	52.0

第2表 オウトウ品種の花粉発芽率の推移

品 種 名	1996年	1997年	1998年
佐藤錦	74.2%	63.3%	43.0%
高砂	67.0	53.8	34.0
ナポレオン	65.1	62.2	35.0
高社錦	—	55.5	46.0
正光錦	—	63.3	54.5
香夏錦	—	85.7	31.2
夕紅錦	—	—	31.0
高陽錦	—	—	34.3

第3表 オウトウ品種の収穫期および収量等

品 種 名	開花 盛期	収穫期	1樹収量		
			1996	1997	1998
佐藤錦	4/7	5/25	0.5 kg	0.1 kg	0.1 kg
高砂	4/2	5/22	0.5	0.2	0.2
ナポレオン	4/4	5/31	0.1	0.1	0.0
高社錦	4/3	5/16	1.2	0.3	0.8
正光錦	4/4	5/18	1.9	0.3	1.6
香夏錦	4/2	5/18	0.9	1.1	1.0
夕紅錦	4/3	5/29	0.7	0.2	0.1
高陽錦	4/5	5/29	1.5	0.1	0.1